

Akita University of Art  
Research and Outreach Programs



# 秋田公立美術大学 2025 社会連携事業事例集

発行：秋田公立美術大学

デザイン：木村 優希 (むすぶ企画室)

写真：伊藤 靖史、中田 大介、船山 哲郎ほか

制作：NPO法人アーツセンターあきた

※ 乱丁・落丁誌はお取替えいたします。

※ 本誌内容の無断転記、転載、複写はご遠慮ください。

※ 本誌データは2025年6月現在の情報です。あらかじめご了承ください。

秋田公立美術大学  
AKITA UNIVERSITY OF ART



秋田公立美術大学  
社会連携事業事例集  
2025

# 秋田公立美術大学は社会の大きな変動に呼応し、 古い概念にとらわれることなく **新しい芸術領域の創造に挑戦する** 大学です。

不確実で複雑な時代。予測できない未来に対して、広い視野をもってイメージをふくらませ、発想力や表現する力によって新たな価値を創造していくことの重要性が高まっています。秋田公立美術大学は、教員らの専門領域に由来する多様な社会連携事業の実践を通じ、大学の「知」を地域に還元することにとどまらず、大学の枠を超えて、秋田がもつ「知と技」の醸成を目指しています。

## 1. 多様な専門領域の教員らが協働し、 予想を超える価値の創造に挑戦

特定の分野・領域に限定せず、多様な専門性を備えた教員らが協働することで、新しい価値の創造に挑戦します。

秋田公立美術大学には、アーティストやデザイナー、建築家として国内外で活躍する教員が多数在籍し、実社会とつながるプロジェクト型の研究・教育活動を実践しています。

### アーツ&ルーツ専攻

地域の歴史的な文化資源(ルーツ)の調査・研究を通して、その再評価の中から新たな芸術表現を探索する。

### ビジュアルアーツ専攻

現代美術の新しい方向性を探り、様々な素材や媒体を通して現代的な表現を展開する。

### コミュニケーションデザイン専攻

多様なメディアを活用したビジュアルコミュニケーションを学び、効果的なデザインやアートディレクションを可能にする。

### 景観デザイン専攻

様々な表現領域の制作活動から、社会変革を促す「景観」を創造する。

### ものづくりデザイン専攻

秋田の文化資源を背景に、人と人との豊かな関係を築くものづくりを提案する。

美術教育センター

基礎教育センター

キャリアセンター

秋田公立美術大学

協働<sup>1</sup>

伴走<sup>2</sup>

発信<sup>3</sup>

## 2. アートやデザイン、まちづくりに精通した 専門のコーディネーターが伴走

秋田公立美術大学が設立したNPO法人アーツセンターあきたが、相談の対応や進捗管理を行います。



## 3. 多様なメディアを通じて積極的に情報発信

プロジェクトの過程や成果を、ウェブサイトやSNS、マスメディアを通じて積極的に情報発信することで、プロジェクトの認知や理解を飛躍的に高めます。

秋田公立美術大学は、アートやデザイン、まちづくり、ものづくりの視点や思考法、技術を活かしながら、地域の企業や研究機関、自治体と連携し、地域の価値創造に貢献する様々なプロジェクトに取り組んでいます。





## 事例1

能代北高跡地活用可能性検討業務

# 専門家が長期的に参加し、 アップデートしつづける空き地の利活用

能代北高等学校と能代商業高等学校の統合に伴い、2014年3月に秋田県から能代市に譲与された通称「北高跡地」。18,000㎡以上もの広さを誇る空き地の利活用について、能代市からの委託を受け、2020年度に基礎調査を実施。恒常的な施設を建設することを想定した地域の文化経済を底上げする文化施設プログラムの提案と、実験的に仮設建築物を増改築することを想定し、中心市街地活性化に向けた機運を醸成する思考継続型プロジェクトを提案しました。

また、2021年度からは長期的に語り合い、実験を繰り返しながら進めていく思考継続型のプロジェクトとして、市民参加型のワークショップで出された利活用案の実証実験に取り組みました。

〔委託者〕 能代市

〔担当教員〕 小杉 栄次郎 教授（建築・都市設計の理論と実践）  
井上 宗則 准教授（都市・建築デザイン）

〔期間〕 2020年6月～2024年3月

## きっかけ・動機

中心市街地の空き店舗を活用した高校生の居場所づくりに関する能代市との取り組みを契機として、能代北高跡地の利活用に関する相談が担当教員にあり、基礎調査から取り組み、長期のプロジェクトになることも視野にいたれた連携事業につながりました。

|       | 1月 | 2月 | 3月                  | 4月 | 5月 | 6月                | 7月        | 8月             | 9月 | 10月                                               | 11月 | 12月 |
|-------|----|----|---------------------|----|----|-------------------|-----------|----------------|----|---------------------------------------------------|-----|-----|
| 2020年 |    |    |                     |    |    | ● 能代北高跡地活用基礎調査の実施 |           |                |    |                                                   |     |     |
| 2021年 |    |    | ● 企画提案              |    |    |                   |           | ● 契約締結         |    | ● 業務計画書作成・<br>基礎調査報告書の広報用ブックの発行<br>● 事業実施・分析(1年目) |     |     |
| 2022年 |    |    | ● 企画提案<br>● 事業報告書納品 |    |    | ● 契約締結            | ● 業務計画書作成 | ● 事業実施・分析(2年目) |    |                                                   |     |     |
| 2023年 |    |    | ● 事業報告書納品           |    |    | ● 契約締結            | ● 業務計画書作成 | ● 事業実施・分析(3年目) |    |                                                   |     |     |
| 2024年 |    |    | ● 事業報告書納品           |    |    |                   |           |                |    |                                                   |     |     |



実証実験プロジェクト第2弾「北高跡地で展望してみる」



市民参加型ワークショップで出された活用アイデアを実践



プロジェクトの背景や狙いを冊子やニューズレターにまとめて発行

## 事例2

にかほ市×秋田公立美術大学協働プロジェクト「ジオカルチャー研究プロジェクト」

# 地域資源発掘をアートの視点から試みる

鳥海山麓に広がる自然や代々続く伝統行事をはじめ、にかほ市に横たわる多様な地域資源の発掘を試みる「ジオカルチャー研究プロジェクト」。にかほ市と本学の協働で立ち上がったプロジェクトでは、教員、助手、学生や外部アーティストらによる3つのプロジェクトと、新たな研究シーズの発掘としてさらに3つの取組が加わり、展開されました。野外アクティビティーの探究や歴史・民俗の観察・考察、鳥海山の山体崩壊でできた「流れ山」の研究等を進め、学生自身の研究・制作に発展するなどプロジェクトにとどまらない広がりを見せました。

また、研究の過程・成果をまとめた研究レポート《手長足長》をタブロイド紙としてまとめ定期発行。デザイン性の高い媒体に県外からも注目が集まり、波及効果を上げました。

〔委託者〕 にかほ市

〔担当教員〕 石倉 敏明 准教授（芸術人類学、神話学）  
尾花 賢一 准教授（立体造形、絵画）  
萩原 健一 准教授（映像、メディアアート）  
井上 宗則 准教授（都市・建築デザイン）

〔期間〕 2021年4月～2025年3月

## きっかけ・動機

にかほ市と本学は2020年、包括的な連携・協力のもと地域社会の発展、人材の育成および芸術文化と産業振興に寄与することを目的として連携協定を締結しました。  
本学との連携を通じ、にかほ市の自然環境や資源、文化などの可能性を研究するとともに、新たな事業の開拓が期待されました。

|       | 1月       | 2月 | 3月                      | 4月 | 5月             | 6月                       | 7月 | 8月 | 9月 | 10月      | 11月 | 12月 |
|-------|----------|----|-------------------------|----|----------------|--------------------------|----|----|----|----------|-----|-----|
| 2020年 |          |    |                         |    |                |                          |    |    |    | ● 連携協定締結 |     |     |
| 2021年 |          |    |                         |    | ● 「にかほ市リサーチ」実施 |                          |    |    |    |          |     |     |
| 2022年 | ● 研究計画提案 |    |                         |    | ● 契約締結         | ● 研究計画書提出<br>● 研究実施(1年目) |    |    |    |          |     |     |
| 2023年 |          |    | ● 研究計画提案                |    | ● 契約締結         | ● 研究計画書提出<br>● 研究実施(2年目) |    |    |    |          |     |     |
| 2024年 |          |    | ● 研究経過報告書納品<br>● 研究計画提案 |    | ● 契約締結         | ● 研究計画書提出<br>● 研究実施(3年目) |    |    |    |          |     |     |
| 2025年 |          |    | ● 研究報告納品                |    |                |                          |    |    |    |          |     |     |



石名坂のアマノハギ(撮影:石倉敏明)



仁賀保地区と金浦地区で開催したまち歩きとトークイベント「いっぽにほにかほながれ散歩」(鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会協力)





柳澤鉄工所×秋田公立美術大学 新製品開発プロジェクト

## 美大のデザイン力と発信力を駆使して協働

鹿角市で創業から100年を数える鉄工企業、柳澤鉄工所（鹿角市）と本学がタッグを組み、鉄工所の知見や技術力と美大のデザイン技術や発想力を駆使した新製品開発プロジェクトに取り組んでいます。2024年度は、プロダクトデザインを専門とする教員・助手・学生のチームが合宿をおこない、金属加工作業などプロの知恵と技術に触れた経験をもとに鉄工所技術の特色を活かしたオリジナルデザインの試作品を製作しました。この新製品開発プロジェクトを軸に、2025年度は試作品をブラッシュアップすると共に、協働の取り組みを発信する広報プロジェクトも始動しています。

〔委託者〕 株式会社柳澤鉄工所

〔担当教員〕 柚木 恵介 准教授 ものづくりデザイン  
(プロトタイピング、Material Lab、ワークショップ)

〔期間〕 2024年9月～

### きっかけ・動機

女子社員用のシャワールーム整備に関するお話から始まり、若い人材確保や職場環境整備に向けた提案、広報媒体の制作、BtoCの商品開発協力等のご相談をいただきました。本学社会連携委員会の教員による視察や意見交換を経て、教員・助手・学生のチームによる新製品開発プロジェクトにつながりました。

|       | 1月 | 2月 | 3月                    | 4月   | 5月       | 6月 | 7月    | 8月 | 9月    | 10月   | 11月 | 12月 |
|-------|----|----|-----------------------|------|----------|----|-------|----|-------|-------|-----|-----|
| 2024年 |    |    |                       | ●ご相談 | ●視察・意見交換 |    | ●企画提案 |    | ●契約締結 | ●事業実施 |     |     |
| 2025年 |    |    | ●試作品報告会実施<br>●事業報告書納品 |      |          |    |       |    |       |       |     |     |



職人の技術を学ぶ



試作を重ねていく



試作品を前に意見交換



合宿を経て協働で製作した試作品の報告会を実施

事例4 CNA×秋田公立美術大学

## CNA社屋と外構でアートを発信

包括的連携協定をきっかけに始まったプロジェクト「ビヨンスケープ」では、人々が集い、コミュニティとなっていく様子を想起させるすべり台モニュメント(2017年度)や壁画(2018年度)、CNA敷地内の雑木林を活かした遊歩道・ポケットパークの造成(2020年度)など日常と非日常、暮らしやエンターテインメントを発信するCNAのイメージをもとに計画。2022年度には外観へのやわらかな印象の導入を進めると共に、イベント開催時等の非日常的なイメージを発信しようと染色作品によるインスタレーションを展開し、社屋の外観を彩っています。

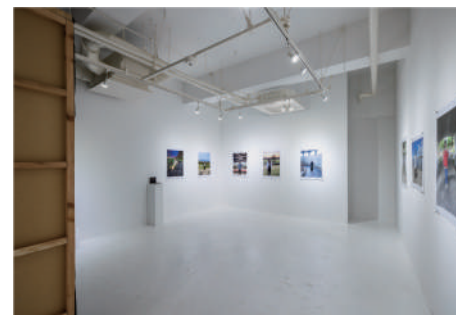
〔委託者〕 株式会社秋田ケーブルテレビ(CNA)

〔担当教員〕 今中 隆介教授(インテリアデザイン、ファニチャーデザイン、プロダクトデザイン) ものづくりデザイン  
森 香織 准教授(本友禪染) ものづくりデザイン  
井上 宗則 准教授(都市、建築デザイン) 景観デザイン

〔期間〕 2017年12月～



染色作品がたなびく外構



BIYONG POINT

### きっかけ・動機

2014年に本学と包括的連携協定を結んだことをきっかけに、CNA社屋および外構においてアートを発信するビヨンスケープや、社屋1Fに設けたギャラリーBIYONG POINTでの展覧会事業等が始まりました。

事例5 美術活性化アウトリーチ事業実施業務

## 表現力・技術力を支援し、文化芸術を担う若手を育成

県内高校の美術部員や顧問を対象に、デザイン分野への理解、制作技術、指導手法向上のための支援を通じ、表現力・技術力の向上と文化芸術を担う若手の育成を図ることを目的としたアウトリーチ事業。

2024年度はデザインの理論と実践を、2025年度は映像デザインの講義やワークショップのほか一般へ向けたワークショップを実施し、デザイン分野への造詣をより深める事業へと展開します。本学教員の専門性を活かした講義やワークショップにより、文化芸術活動の振興に貢献します。

〔委託者〕 ミルハスを核としたにぎわい創出実行委員会

〔担当教員〕 石川 昌 准教授(ビジュアルアイデンティティ、サイン計画、空間グラフィックス) コミュニケーションデザイン  
柚木 恵介 准教授(プロトタイピング、Material Lab、ワークショップ) ものづくりデザイン

〔期間〕 2024年6月～

### きっかけ・動機

地元の美大として、県内の文化芸術活動の振興や課題の把握、その実情に即した効果的なアプローチが可能であるとの期待から本学にご相談をいただきました。



高校生を対象としたアウトリーチ



本学教員によるデザインの理論と実践





“空色”に塗り替えられた新屋横断歩道橋(撮影:中田大介)



色見本を手に、色を決める参加者

〔委 託 者〕 秋田地域振興局

〔担当教員〕 柚木 恵介 准教授 ものづくりデザイン  
(プロタイピング、Material Lab、ワークショップ)

〔期 間〕 2022年6月～2024年4月

事例 6 新屋横断歩道橋補修に伴う色彩デザインプロジェクト

## 地域住民とともにつくる まちの風景

秋田地域振興局が実施する秋田天王線「新屋横断歩道橋」の補修事業に協力し、本学が提案した歩道橋に塗装する色を地域の人と一緒に考える色彩デザインプロジェクトを実施しました。1年間かけて毎月1日の正午に歩道橋に上がり、お話を聞きながらその時間の「空の色」を定点観測し、塗装に活かすプロジェクトです。

地元の小中学生からプロバスケットボールチームの選手まで、新屋地域に関わる12組27名が参加。誰かがデザインした歩道橋ではなく、地域のあの人が関わってできた歩道橋が完成しました。

### きっかけ・動機

地域の人々にとって身近な存在である歩道橋の補修にあたり、地域の人々にとって意味のあるものにしたいと、本学にご相談をいただきました。

事例 7 ドンパン娘シンボルキャラクター・ロゴ制作活用事業

## 地域に長く愛される デザインを目指して

民謡ドンパン節の発祥の地、大仙市中仙地域で夏に開催される祭りでは、踊り子のドンパン娘を中心に踊りの輪が広がります。

このドンパン娘を題材に、本学の学生と教員がロゴとキャラクターをデザイン。地域に長く愛されるよう、制作過程では住民に話を聞いてイメージを調査。完成したデザインは踊りの輪などから連想した「円」をモチーフとし、中仙地域の自然・文化・伝統の要素が散りばめられています。

〔委 託 者〕 大仙市

〔担当教員〕 石川 昌 准教授 コミュニケーションデザイン  
(ビジュアルアイデンティティ、サイン計画、空間グラフィックス)

〔期 間〕 2022年5月～2025年3月

### きっかけ・動機

ドンパン節・ドンパン娘という大仙市中仙地域の文化の知名度向上と継承につなげる上で、本学のデザインの専門性が活かせないかとご相談をいただきました。



キャラクター「桜田まどか」とロゴ



資料を見ながら打ち合わせる教員と学生



大館市とともに取り組んだプロジェクト(撮影:今中隆介)



東京オリンピック・パラリンピックで使用された木材を活用した遊具(撮影:萩原博則)

〔委 託 者〕 大館市

〔担当教員〕 今中 隆介 教授 ものづくりデザイン  
(インテリアデザイン、ファニチャーデザイン、プロダクトデザイン)

〔期 間〕 2022年6月～2023年1月

事例 8 ORAeと選手村ビレッジプラザ提供木材再加工及び木育空間整備業務

## 秋田の優れた木工産業に 光をあてる

全国的にみても極めて高い技術力を誇る秋田の木工産業ですが、他県の産地ほどには認知度が高まっていないのが現状です。本学の教員らが中心となり、県内各地で木工に関わる多世代の事業者をつなぎ、ORAe(オラエ)としてネットワーク化。合同の展示会開催やブランディングのための情報発信、複数の事業者が協働するプロジェクトなどを通じて、秋田の木工業の価値向上を図っています。

本学と県内自治体や企業が連携したプロジェクトにORAeのネットワークが活かされ、高い専門性と技術力、デザイン性が発揮された製品が、県内の公共空間などに設置されています。大館市との連携プロジェクトでは、東京オリンピック・パラリンピック選手村施設で使用した秋田県産材をリサイクルし、こども向けの遊び場の什器・遊具を制作しました。

### きっかけ・動機

東京オリンピック・パラリンピック選手村施設で使用した秋田県産材を有効活用するために、本学のデザインやものづくりの発想を活かせないかとご相談いただきました。

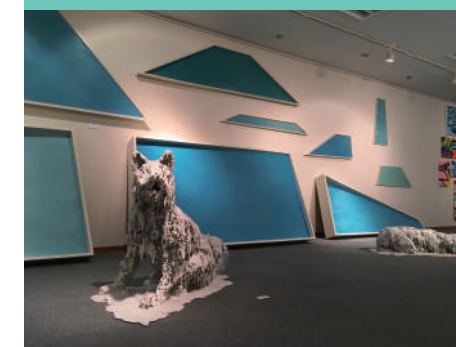
ORAe  
ホームページ



## ●その他のプロジェクト

地域においてアートやデザインがより身近な存在となるよう、公開講座やアートワークショップ、展覧会の開催などにも取り組んでいます。

### 展覧会



学生の作品を展示販売するAKIBI ARTs MARKET

学内外のギャラリースペースや美術館などを用い、本学の研究・教育活動の成果を、専攻展・卒業・修了展や在学生・卒業生の個展・グループ展など、展覧会形式で公開しています。

### 公開講座



シンポジウム「ローカルに美大があるということ」

教員による研究発表や外部講師を招いた公開講座などを不定期で開催しています。

### アートワークショップ



作家によるワークショップ

主に小中高生を対象に、創造力や表現力を養う本学オリジナルのアートワークショップやデッサンスクールを開催しています。



## ● 連携の流れ

秋田公立美術大学と連携したプロジェクトは、概ね以下の流れで実施しています。連携にご関心をお持ちの場合は、ページ下部のお問合せ先までご連絡ください。

### 1. 相談

秋田公立美術大学の社会連携事業のコーディネーションを担当する  
**NPO法人アーツセンターあきた**にお問合せください。ご相談内容をお伺いし、適切な教員などを紹介し、連携の可能性を探ります。

### 2. 調査

事業化に向け、美大のリソースを最大限に生かして調査・検討します。

### 3. 企画提案・お見積もり

ご相談内容を踏まえ、調査・検討の上、プロジェクトの企画提案をさせていただきます。

### 4. 契約

プロジェクトの予算やスケジュール、体制などを確認し、契約を締結します。

### 5. 制作・運営

企画に基づき、プロジェクトの制作・運営を進めます。コーディネーターが伴走し、状況変化に柔軟に対応し、プロジェクトの完了までサポートします。

### 6. 記録・発信

プロジェクトの過程や結果をテキストや写真、動画で取材・記録し、ウェブ等を通じて発信し波及効果を高めます。

### 7. 納品完了

完了後、ご相談から制作・運営、完了までのプロセスをスタッフ内で振り返ります。お客様からもご意見・ご感想をいただけますとありがたいです。

※プロジェクトにより、掲載している流れと変わる可能性があります。ご了承ください。

## ● お問合せ先

電話 018-888-8137 メール [program@artscenter-akita.jp](mailto:program@artscenter-akita.jp)

NPO法人アーツセンターあきた 〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町12-3 アトリエもさだ内

受付時間 午前9:00～午後5:00／毎週月曜日から金曜日

ウェブ：<https://www.artscenter-akita.jp>



## ● 教員一覧

### アーツ&ルーツ専攻

藤 浩志 教授  
アートプロジェクト、地域計画、空間構成

皆川 嘉博 教授  
彫刻、彫塑表現、テラコッタ彫刻

村山 修二郎 教授  
絵画、コミュニケーションアート、幼少造形教育

山川 冬樹 准教授  
現代美術、身体表現、映像・音響、ハンセン病史

唐澤 太輔 准教授  
哲学、文化人類学

石倉 敏明 准教授  
芸術人類学、神話学

### ビジュアルアーツ専攻

岩井 成昭 教授  
インスタレーション、アート・プロジェクト、多文化とアート

長沢 桂一 教授  
テキスタイル

尾花 賢一 准教授  
立体造形、絵画

萩原 健一 准教授  
映像、メディアアート

高橋 卓久真 助教  
メディア表現、デジタルファブリケーション

村上 由鶴 助教  
写真、現代美術、ジェンダー・フェミニズム

櫻井 隆平 助教  
彫刻、立体造形

### 美術教育センター

大八木 敦彦 教授  
英文学、比較文学、現代詩、文芸

野々口 浩幸 教授  
学校心理学

尾澤 勇 教授  
美術科教育、工作・工芸科教育、金属工芸（鍛金）による作品制作

毛内 嘉威 教授  
道徳教育、教育方法

菅原 香織 准教授  
公共デザイン、景観デザイン

福住 廉 准教授  
美術批評、文化研究

大関 智子 准教授  
日本画、美術教育

### ものづくりデザイン専攻

小牟禮 尊人 教授  
吹きガラス、キルンワーク

安藤 康裕 教授  
現代生活空間におけるクラフト及びジュエリーの提案、制作

今中 隆介 教授  
インテリアデザイン、ファニチャーデザイン、プロダクトデザイン

山岡 惇 教授  
指物技法を用いたクラフト作品制作

安藤 郁子 教授  
陶芸制作、ソーシャルアート

熊谷 晃 教授  
蒔絵・螺鈿・変塗り等の加飾技法の研究、乾漆造形による  
飾箱の制作、漆精製、漆上塗り（一級漆器製造技能士）

瀬沼 健太郎 准教授  
ガラス、生け花

森 香織 准教授  
本友禪染

柚木 恵介 准教授  
プロトタイピング、Material Lab、ワークショップ

### 基礎教育センター

小杉 栄次郎 教授  
建築・都市設計の理論と実践

岸 健太 教授  
アーバンスタディーズ、東南アジア地域研究、地域資源マネジメント

石渡 雄士 准教授  
都市史、建築史

井上 宗則 准教授  
都市・建築デザイン

井上 豪 教授  
東洋美術史

戸澤 里美 助教  
社会教育、多文化共生

加賀谷 亨 特任教授  
学校教育

嶋崎 公人 特任教授  
学校教育

谷村 格 特任教授  
学校教育

佐藤 進 特任教授  
学校教育

### コミュニケーションデザイン専攻

坂本 憲信 教授  
グラフィックデザイン、ビジュアルコミュニケーションデザイン

孔 鎮烈 教授  
パッケージデザインの造形表現、商品ブランディング、立体構成

飯倉 宏治 教授  
情報科学

裴 鎮奭 教授  
WEBデザイン、情報デザイン

石川 昌 准教授  
ビジュアルアイデンティティ、サイン計画、空間グラフィックス

草薨 裕 准教授  
写真

坂本 祥世 講師  
漫画、イラスト

### 景観デザイン専攻

小杉 栄次郎 教授  
建築・都市設計の理論と実践

岸 健太 教授  
アーバンスタディーズ、東南アジア地域研究、地域資源マネジメント

石渡 雄士 准教授  
都市史、建築史

井上 宗則 准教授  
都市・建築デザイン

### 基礎教育センター

小杉 栄次郎 教授  
建築・都市設計の理論と実践

井上 豪 教授  
東洋美術史

戸澤 里美 助教  
社会教育、多文化共生

### キャリアセンター

水田 圭 准教授  
統合デザイン、社会実装、情報編集、課題解決、公共広告